

各種予防接種は 済んでいますか

接種期間が3月31日までの予防接種について、接種が済んでいるか確認し、接種していない人は受けましょう。

高齢者肺炎球菌

対象 令和4年度中(令和5年3月31日まで)に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳の誕生日を迎える人

麻しん風しん混合ワクチン 第2期

対象 小学校就学前(幼稚園年長)の子ども

混合ワクチン(破傷風、ジフテリア)第2期

対象 小学校6年生の児童

マイナンバーカード・電子証明書の有効期間

マイナンバーカードの有効期間

18歳以上の人 発行日から10回目の誕生日まで
18歳未満の人 発行日から5回目の誕生日まで

マイナンバーカードの電子証明書の有効期間

発行日から5回目の誕生日まで

企画部定住戦略室

☎(22)1125

第24回白鳥省吾賞 受賞者決定

大正・昭和期に活躍した築館地区出身の詩人、白鳥省吾の功績を顕彰する、第24回白鳥省吾賞の受賞者が決定しました。

一般(高校生以上)の部

【最優秀賞】

齋藤 茂登子(若手県盛岡市)

【優秀賞】

「新しい礼服」
河野 俊一(大分県大分市)
「夫婦茶碗」
丹野 幸子(宮城県石巻市)
「ふるさと賞」
「雁群」
白鳥 美咲(栗原市)

有効期限の通知 有効期限の2、3カ月前に、地方公共団体情報システム機構(J-LIS)から有効期限通知書が送付されます。

有効期限以外の更新手続き

引越しや婚姻などで、住所や氏名が変更となった場合は、電子証明書が失効します。住所の市区町村窓口で、更新手続きを行ってください。

市民生活部市民課

☎(22)3211

婚活支援情報

宮城県で実施している、婚活支援情報をお知らせします。詳しくは、各センターのウェブサイトまたは、栗原市定住促進サイトをご覧ください。

定住促進サイト「きてみらいんくらしたい栗原」

URL <https://www.kuriharacity.jp/welcome/>

みやぎ婚活支援センター(みやまり)

Aーを活用したシステムにより、マッチング支援や婚活

イベントを行っています。対象 宮城県在住・在勤または、将来的に宮城県へ移住予定で、20歳から49歳までの独身男女

登録料 1万1千円

※2年間有効となります。

みやぎ結婚支援センターウェブサイト

URL <https://miya-marinet/>

登録料助成

市では、登録料の一部を助成しています。

対象

市内に住所があり、令和3年11月1日以降に会員登録した、市税などを滞納していない独身の

助成金額

6千円

※一人につき1回のみ

※申請方法を詳しくは、定住促進サイトを確認してください。

みやぎ青年婚活サポートセンター(みやぎP.I.S.A)

交流会などのイベントや、結婚相談員による相談などを行っています。

対象

初婚・再婚問わず結婚を誠実に希望する、25歳から49歳までの独身男女

登録料

5千円

※会員登録は、5人紹介するまでとなります。

小・中学生の部

【最優秀賞】

「ため息」

菅原 瞳美(栗原市/築館中学校2年)

【優秀賞】

「夏の雲軍団」

榎納 陽(京都府/京都教育大学附属京都小中学校初等部3年)

「ありのぎょつれつ」

菅原 結菜(栗原市/鷺沢小学校3年)

【特別賞】

「波打ち際」

齋藤 悠一郎(茨城県/茨城大学教育学部附属中学校2年)

「鳥」

八巻 愛里(栗原市/築館小学校6年)

「交差」

水谷 友理子(東京都/フェリス学院中学校3年)

※賞状・副賞の発送をもって表彰とします。

白鳥省吾記念館

☎(23)7967

汚泥肥料無料配布

市衛生センターでは、し尿処理後の汚泥から、水分を取り除き、肥料として市内の皆さんへ無料で配布しています。

市内の文化財散策

唐箕

唐箕は、風力を利用して穀物を選別する器具です。日本で使われ始めた時期には諸説あり、元禄時代に出現したという説や、明治時代に中国から伝わったという説があります。いずれにしても、唐箕は中国から伝来したもので、17世紀に中国で書かれた「天工開物」という技術書で紹介されています。

唐箕の原理となる風選は、風が吹いたときに脱穀したもみなどを高い位置から落とすと、わらくすなどの軽いごみは風に乗って飛んでいき、重いもみは下に落ちて選別できるという方法です。唐箕はこの原理を応用して、人工的に風を起こし、選別口などを工夫することで、より正確に穀物の選別を行えるようになった器具です。

次第に、風力や穀物の落下量などを調整する装置が付いた唐箕が考案され、上総(現在の千葉県中部)、三河(現在の愛知県東半部)、大阪(現在の大阪府大阪市)が著名な産地になりました。中でも上総

唐箕は、千葉県上総地方の旧松丘村、旧亀山村方面の職人が東日本各地を回り、製作して歩いたそうです。

市内には、大正時代に作製されたものなど、古い木製の唐箕が複数あります。ハンドルを回して羽根車を回転させてみると、今でも勢いよく風を送り出します。皆さんの周りでも、木製の唐箕を現役で使用している家があるかもしれません。

種別 民具

☎(42)3515



▲唐箕を使用する様子



市長随感

栗原市長 佐藤 智

渡り鳥のように羽ばたいて

冬の厳しい寒さもいくらか和らぎ、栗原にも春の気配を感じています。この時期になると、栗原の冬の風物詩であった渡り鳥の姿が少なくなってきたことに気づかれます。

越冬のため、伊豆沼・内沼には毎年、およそ10万羽ものガンや白鳥が飛来してきて、今季もたくさん渡り鳥がやってきました。空を覆うほどの多くの渡り鳥が一斉に行動する、朝の飛び立ちと夕方の寝ぐら入りは、冬の時期だけ見ることできる圧巻の光景で、全国各地から多くの人が、その光景を見ようと伊豆沼・内沼を訪れています。

その渡り鳥も、2月下旬から3月上旬にかけて越冬を終え、多くがシベリアなどの生まれ故郷に向けて帰っていき、季節が巡った後、

冬を告げる使者として、また栗原に戻ってきます。渡り鳥が帰っていくと、少し寂しく思うとともに、春がすぐそこまで迫り、自然と気持ちも高ぶってくるように思います。

まもなく、私が市長に就任し、3年目となります。人にも渡り鳥にとっても住みやすい栗原。この地をより良くするため、頑張りたいと思います。



▲水辺を舞う渡り鳥